

死ぬほどの位もなくて早かな

藤田湘子

「死ぬほどの位もなくて」とは印象的なフレーズである。まるで、位を掌中にするかと死んでしまいたいそうではないか。しかし、確かに、勲章や賞をもらうと、死期が近いのかと勘ぐってしまうことがある。まるで死と引き替えのように褒章として授けられるような有様を仄聞することがある。

ある時、「鷹」の大会で、飯島晴子さんと後藤綾子さんと三人で珈琲を飲んだ。後藤さんが晴子さんに「蛇笏賞取りなさいよ」晴子さんいわく「蛇笏賞なんか取っちゃうと、私死んじゃうかも」的なニュアンスのやりとりがあった。時の彼方から不意に甦ることがある会話。掲句とは関係のない話である。

1986年 (558.08.08作) 第六句集『一個』 鑑賞・野本京